

二上山だより

祐泉寺の白いヒガンバナ

二上山の東の登山口・祐泉寺境内に今年も白いヒガンバナ(写真)が咲きました。白ヒガンバナの多くは**シロバナマンジュシヤゲ**(白花曼珠沙華・ヒガンバナ科ヒガンバナ属)で、ヒガンバナとショウキズイセンとの交配雑種とされています。

この花も赤いヒガンバナも種子を作らないで、球根(鱗茎)で増えますが、山では見かけません。ずっと昔に中国から来た植物だからでしょう。雌岳頂上のヒガンバナは誰かが植えたのでしょうか。



テイショウソウ(キク科モミジハグマ属)

今、二上山の各所でテイショウソウが咲き始めました。地味ですが、紅をわずかにさした白く細い花弁を四方に広げ、ヒョロヒョロと伸びた花茎にいくつも連なって咲いています。二上山の秋を代表する花です。

以前にも紹介しましたが、作家の田中澄江さんはその著書「花の百名山」で「二上山雄岳=テイショウソウ」と題した章を設け、その中で「鮮やかな緑の葉に、濃淡の斑文のある草がまばら生いしていて(中略)ギザギザのある長方形の形が端正なので、大津皇子の山にふさわしい気がして」とテイショウソウについて記しています。

田中さんが秋にテイショウソウを見ていたなら、葉のみならず花その物を的確に描写し、彼女らしい想いを述べたに違いないと思い、この花の為にも残念なのです。

ところでこの植物名の漢字と名の由来をご存知の方、教えて頂けないでしょうか。



スズムシバナ(キツネノマゴ科イセハナビ属)

左の青紫色の花が二株咲いていました。鈴虫が鳴く頃に咲くからというのが名の由来。一日花です。



上 ミツバツチグリの狂咲き



上 オヤマリンドウ



上 瓶ヶ森山頂



上 ヒオドシチョウ

頂上から西に下りて氷見二千石原という笹原を通り、そこからほぼ水平に歩いて登山口に下り立った。

早くも暮色漂う駐車場には他の車は無く、ティーシャツには涼しすぎる風が柔らかに吹き抜けていた。

車を使えば、誰でも手軽に登れて、しかも晴天なら素晴らしい眺望の得られるやさしい山である。

(以上 102 号)

高校同窓会の登山旅行

「石鎚山～四万十川～剣山」 事前①瓶ヶ森

50年前に卒業した高校同期生の登山旅行が今年も行われた。今回は四国の二つの名山に登るのだ。私はこの二山には過去2度登っているが、他にも登りたい山が幾つかあるので、皆より一日早く現地入りした。

9月25日(金) 大阪難波 7:25 発の高速バスは12時半過ぎに松山駅前に到着。路面電車がなんとなく懐かしいのは長崎の街頭風景を連想させるからだろうか。

レンタカーで山に向かう。面河溪に寄り、明日の宿泊先を確認、石鎚スカイラインを走って土小屋で登山口を見て、瓶ヶ森林道を遡り、瓶ヶ森(かめがもり)登山口に着いた時は15時を過ぎていた。

駐車場に車を入れると、水筒片手に笹原と灌木の中の登山路を歩いた。背の低い笹原のあちこちでリンドウ、ミヤマアキノキリンソウ、フウロ等が花を見せ、散在する灌木の幾つかは葉を種々の色に染め始めていた。リンドウは2種類咲いているようだ。少し大きいのがオヤマリンドウか、やや小さめで薄いブルーのはアサマリンドウと思われる。フウロも多いが、これがシロクフウロなのだろう。季節外れのミツバツチグリの花をつけている。

まもなく標高1896mの瓶ヶ森山頂に着いた。笹原の中のピークに石室のお堂が建っている。西方に見えるはずの石鎚山(1982m)は雲がかかってその全貌を見せてくれない。



上 瓶ヶ森山頂付近の景観